

ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

第1回グランプリ作品

鹿児島市立鹿児島玉龍中2年 木田 夕菜さん
意見を聞いた人 : 父

(1) この記事を選んだ理由を書いてください

宮崎県で発生した口蹄疫は、隣県で宮崎を上回る畜産県である私の住む鹿児島県でも大きな問題だった。4月20日の発生以来、私の周りでも多くの人たちが口蹄疫のために、悩み苦しんだ。4カ月ぶりに届いた面白いニュースに私は少し胸をなで下ろした。

(2) 記事を読んで分かったこと、疑問に思ったこと、感じたことなどを書いてください

豚肉市場に対する安心や信頼を取り戻すためには、徹底した消毒が必要なのだという。養豚農家の方の話が掲載されていたが、消費者が口にするものであるから、生産農家にとって食に対する安全は最優先されるべきものだと思う。記事によると、競り落とされた価格は競りが中止される直前の価格よりも高い値段で取り引きされた。都城をはじめとしてこの南九州の畜産地帯が培ってきた信頼は、簡単には揺らぐことのない確かなものだったと改めて感じた。

(3) 家族や友だち、クラスメートなどにも記事を読んでもらい、その人の意見を聞いて書いてください

私の父は教師をしている。父が言うには口蹄疫が発生した地域の学校では、畜産農家を営む親が、自分の農場への感染を恐れるあまり、子どもに学校を休ませるということがあったらしいと教えてくれた。この4カ月間苦しんだのは殺処分や出荷停止でつらい思いに耐えてきた畜産農家の方だけでなく、それにかかわるさまざまな人々が、その人権を脅かされるほどの影響を受けてきたのだと父は話してくれた。

(4) 話し合い後のあなたの意見・感想・提言を書いてください

私には口蹄疫の問題は正直、身近に起きていながらまるで対岸の火事のようにしか感じていなかった。しかし、父の話聞いてから、改めて新聞を読み直してみると、県を代表する観光地である霧島の温泉地域への観光客が激減したことや県内のイベントが次々と中止となったことが連日、新聞でも伝えられていたことに気づき、今回の問題が私たちの生活にも気づかないうちに暗い影を落としていたことを知らされた。

私は一つの問題をみる時、もっと想像力豊かにいろいろな面から物事をとらえることが大切だと感じた。今回の再開によって、すべての不安が払拭(ふっしょく)されたわけではなく、畜産農家の人々を中心として今後もその苦労や努力は続いていくのだと思う。ただ、この「豚の競り 都城再開」という見出しは、そんな読み手の心を一条の光で照らしてくれている、そんな役割を果たしてくれているように感じた。

新聞記事を読み、家族や友人と意見交わし、考えを深めて感想文にまとめるコンクール。今年の好きな記事をもとに南米ペルーを含む

提言賞の三国さんは、男
東京の1256点。最多は
から1247点。道内
の応募が寄せられた。道内
む全国から1万2290点

性(せい)の育休事情を取り上げた記事(北海道新聞7月21日夕刊)を母親と読み、「子育ては両親でするもの。そのことが当たり前の世の中になつてほしい」と提言した。

考察賞の宮沢さんは、終戦時に旧満州(現中国東北)で逃げ回った体験を女性(せい)が語った記事(朝日新聞8月25日朝刊)を父親と読み、「この戦争があつたからこそ、今の私たちの幸せがある。大切なことは間違いないを繰り返さないこと」と

最高賞のグランプリは宮

「いっしょに読もう!新聞」コンクール

グランプリ 鹿児島 木田さん

NIE週間行事の一環として日本新聞教育文化財団が全国から募集した「いっしょに読もう!新聞」コンクールの入選作が決まった。第1回グランプリには鹿児島市の中学2年生が当選。道内からは特別賞の提言賞に札幌市立平岡中央中2年の三国初佳さん、同考察賞に後志管内倶知安町立西小樺山分校6年の宮沢さくらさんがそれぞれ選ばれた。

特別賞 道内から2人

札幌 三国さん
倶知安 宮沢さん

APECのメディアセンターで女性記者から説明を聞く受賞者たち(右)



【奨励賞】加我珠羅(旭川市立聖園中1年)、渋谷佳(同)、浅井唯(剣淵町立剣淵中3年)、文梨涼(同)、石見沙央里(立命館慶祥中3年)、溝口縁(同)、川村綾理(北星学園女子高3年)、菅家千江子(同)【学校賞】札幌市立平和小、立命館慶祥高

問題を取り上げた鹿児島市立鹿児島玉龍中2年の木田夕菜さんが受賞。9月2日付南日本新聞の記事選択の視点に具体性があつたこと、口蹄疫のマイナスの影響を調べて考え、記事に書かれたプラス面を感じ取っ

ている読みの深さなどが評価された。グランプリの木田さんら4人は受賞の特典として横浜で行われたアジア太平洋経済協力会議(APEC)の会場やメディアセンターの事前見学を特別に許可され、取材する女性記者へのインタビューなどを行った。同コンクールは来年も行われる。

当協議会主催のNIEセミナーは苦小牧(11月6日、道新苦小牧支社)と旭川(12月11日、道新旭川支社)で開かれ、実践報告をもとに意見を交わした。

スクラップを宿題に

苦小牧
泉野小 スピーチに広がり

セミナー
実践報告

苦小牧・日高セミナーには20人が参加。日下部憲一コーディネーターが新学習指導要領での道徳の授業の進め方について講義。続いて苦小牧市立泉野小の富岡賢晃教諭が朝のスピーチの材料にも生かせる、記事を要約したスクラップノートをも宿題に課す5年生の取り組みを紹介した。地域の問題に触れ、スピーチのテーマが広がる様子が報告された。

浦河一中の近藤弘樹教諭はアイヌ民族の住居チセの資料やアイヌ文様刺しゅう家の故チカップ美恵子さんの記事から、生活の知恵を考える授業について説明した。

日高の門別中の盛永美樹教諭は、コンクール入賞も多い同校の、伝統的なかべ

新聞づくりを取り上げた。実際の作品を見せながら努力の結果、得られる達成感にも触れた「写真Ⅱ」。

浦河高の望月静華教諭は、実践校に配られる新聞から、進路と絡め成長企業



旭川セミナーに最多70人

投稿指導の工夫紹介

留萌・港南中 苦手意識克服へ

第10回の節目を迎えた旭川セミナーには、指導要領改訂で新聞の位置づけが変わるのを機に、旭川市内の道新販売店関係者を含む過去最多の70人が参加した。市立常盤中の小林直樹教諭は、写真を示して中の情報を読み解いていくピクチャー・トーク(フォト・ランゲージ)の手法を紹介した。同行した同中生徒

の感想も交えながら、「熱意ある一部の教師に任せてしまふ雰囲気にならないため、職員会議でほかの先生にも趣旨を理解させ、積極参加してもらうことが大切」と強調した。

上川の剣淵小の菊地浩之教諭は、各学年1クラスの規模模校で個別の新聞づくりなど、活動を重ねる毎に抵抗感が薄れ、クラスの話

し合いなどに良い影響を与えている現状を紹介した。



NIE実践奮闘記

私が新聞記事の写真を使った授業を始めたのは2年前、1年生の担任をしていた時です。

きっかけは、私自身が新聞記事の中から「おもしろい」「すごい」「どうして」など、感動したことを子どもたちに伝えたいという思いからでした。

記事を紹介する手段として、まるごと記事を与えるのではなく、はじめに写真だけを提示し、写真から読み取れることを考えさせながら、なぜ、この写真が新聞記事とし

南幌町立夕張太小教諭 浅井真理子



て掲載されたかを考えさせました。

このようなクイズ形式の学習を1年生の子ども

たちに9回、実施しました。始めたころ、子どもたちはクイズの正解者になりたい、という気持ち

写真読み取る力つく

読み取ろうとし、写真の中に隠されている記事の根拠を探求していくようになりました。

冷静に、落ち着いて、詳しく読み取ろうとする子どもたちの姿から、読解力、思考力の向上を感

先立って、提示された写真から思いつくことを次々に声に出して答えていました。

しかし、授業を重ねるごとに子どもたちは、写真を深く観察し、詳しく

読むことができた。昨

年、5年生の担任として実践した時は、高学

年には、培われた知識や経験が多くあり、それを活用しながら写真の読み取りを深めたり、発表し

たりする力があるという

ことがわかりました。新聞記事になった根拠を挙げる時には、「例えば」や「前に読んだ本は」「テレビで似たようなものを見たことがある」など、自分の知識や経験と対照させながら意見を述べている姿をみることでできた。

高学年の子どもたちには、自身がもつ知識や経験をNIEの実践の中で活用させることができた。

新聞記事には、偶然の出会いといった魅力があります。そんな新聞を活用しながら、子どもたちの読解力を育てていきたいと思っています。

ある語り口で説明した。

十勝新聞教育研大会で公開授業

切り抜き集め地域理解

清水・御影中

新指導要領見据え工夫



寸劇やロールプレイで地域理解を試みた御影中の公開授業

十勝の清水大会には教職員70人が参加。公開授業と、協議会の日下部憲一コーディネーターによる「新聞を活用した道徳授業」の進め方の解説が行われた。御影中の公開授業は、新学習指導要領を見越して新

聞スクラップを取り入れながら、都道府県の理解を深める取り組み。従来の指導では、47都道府県からいくつかを取り上げ、地域的特徴をとらえさせていた。これが新要領では、日本をいくつかの地域

に区分し、各地域について指定項目で特色を学ぶ方法に変わる。「日本のすがたとさまざまな地域」などの学習を進め、都道府県の調査に入る、この時期に合わせ、暮らしたことのない地域の特色を寸劇などで表現し、学習させる内容だ。

杉野浩利教諭は1年A組の13人に、教科書で触れる予定のない①中部②近畿③中国・四国、を選び出し、①産業(クイズ)②歴史(寸劇)③人口(リポート)の3つの形態でグループ毎に記事を探させ、発表させる仕掛けを考え、授業では、①模造紙でつくった地図を黒板に張り、中部各県の特産物などを当てさせる②幻の宝剣が見つかった記事を使って光明皇

が相次いだ。一方で、パネラーの1人、柳沢伸司立命館大教授は「既存の学生向け紙面が読まれている。むしろ社会に関心を持つ教育を重視すべき」と発言。会場から「新聞離れ」は新聞が市民と乖離(かいり)していることの表れ。新聞社が学会に関わり、社会をどう変えていくか一緒に考えてほしい」との意見も出された。研究発表では学生の参加が目立ち、活用の指針を作る試みや過去の紙面を生かす方法も報告され、研究分野としての関心の高さが示された。

投稿演じる授業公開も

札幌で道NIE研究大会

15回目を迎えた全道の研究大会には40人が参加。札幌市立円山小の沢田敦教諭が5年生に、また向陵中の水野和之教諭が1年生に公開授業を行った。沢田教諭は、新聞は配送に時間が必要な遠隔地向け早版と、時間が短くて済む

遅版で紙面が変わることを、菅改造内閣の顔ぶれを伝えた朝日新聞の夕刊早版と遅版を見比べながら、限られた時間の中で新しい情報に迫る新聞社の編集方法などを学んだ。水野教諭は、道新の投稿欄や記者コラムの記事をも

北海道NIE研究会(坂田恵三会長)の研究大会が10月22日、札幌市立向陵中で開かれた。また、道十勝新聞教育研究会(舟越洋二会長)の清水大会も11月12日、清水町立御影中で開かれ、来年度から段階的に切り替わる新学習指導要領に向けて意見を交わした。

とに、生徒自らが演じることで「誠意を伝える応対」を考える授業と取り組んだ。札幌市教委の工藤真嗣指導主事は「投稿者が言いたかったことを理解し、読み取った内容をお互いに議論しながら実践する意義深い試み」と趣旨を正しく理解させた授業を講評した。実践報告も行われ、鹿追町立笹川小の河江邦教諭が、かべ新聞や新聞スクラップ授業を取り上げたほか、札幌市立宮の森中の及川永江教諭が参院選や裁判員制度などをテーマに社説を読み込む授業について発表した。

新聞学ぶ実践わずか5%

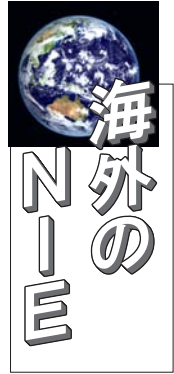
学会で分析結果を報告 京 都

来年度に移行が迫った新学習指導要領や、メディア・リテラシーの必要性を課題とした日本NIE学会第7回大会が11月



27、28日に京都教育大で開かれ、全国の教育関係者や学生ら130人が今後の新聞活用などについて熱心に学んだ。シンポジウムは2部で構成。初めに新聞活用の課題などが示されたパネルディスカッション

った「新学習指導要領と新聞活用」は、横浜国立大の高木まさき教授が全国10道府県について、2004、2008年度の実践報告書にある1585件をデータベース化して分析した内容を発表した。その結果、情報を理解し、まとめる能力のメディア・リテラシーにあたる「新聞を学ぶ」実践は全体の5.4%に止まり、「他メディアとの比較」などの具体例もわずか1.3%と、この分野の授業が少ないことが明らかになった。続く「メディア社会とNIE」では、樋口克次大阪経済大教授が学生への調査をもとに、タブロイド版で月額1500円程度の「大學生向け新聞」の発行を提案。「本紙記事の要約を中心に、図表や用語の解説、就活情報などを盛り込んではどうか」とした。



⑤

韓国

「朝鮮日報には毎日約20万字が印刷されており、1日の発行部数約200万部の重さは570トンにもなります」

10月下旬、ソウル市内の葛峴(カル・ヒョン)小学校6年生の教室で韓国最大の新聞社「朝鮮日報」の劉ナニ記者が、新聞の情報量の多さを具体的な数字で説明すると、児童から驚きの声が上がった。韓国新聞協会が、学校の申請に基づいて記者を無料で派遣するプログラムの1コマだ。

韓国では、1995年にNIE活動が始まり、今は協会加盟の33社が学校でのNIEに協力。記者の派遣以外にも、教師向けのNIE講座の開催、NIEの教育事例を集めたDVDの配布など、さまざまな支援を続けている。

国を挙げて教育に熱心で、直接子どもに教育する父母も多いため、韓国新聞協会は、NIEについて父母向けの講座も開設。新聞を使った家庭での教育方法をまとめたガイドブックも

父母向け講座やガイドも



作成し、希望者に配布している。

経済協力開発機構(OECD)が、世界57カ国・地域の15歳を対象に2006年に行った前回の学習到達度調査(PISA)で、韓国は読解力で1位になった。韓国新聞協会でNIEを担当する李孝貞(イ・ヒョ・ジョン)さんは「NIE活動とPISAの好成績は、新聞の読み方を学ぶ韓国の児童たち、ソウル市内の葛峴小



行政が熱心に後押し

編集後記

○…経済協力開発機構(OECD)加盟国が行ったPISA(Programme for International Student Assessment = 学習到達度調査)の2009年の読解力テストで、日本は8位、と低落傾向にやっと歯止めがかかったという。

○…読解力、数学的応用力、科学的応用力の3部門の教育レベルを競う、この「国際学力テスト」で各部門1位の「3冠」に輝いたのは躍進著しい中国・上海。同国で最も教育熱が高いとされる商業都市の子どもたちだ。が、今年、このページの連載企画「海外のNIE」で上げたシンガポール、フィンランド、韓国の各国いずれも3部門すべて2位から6位と相変わらず健闘しているのにも、驚かされる。

○…今回の結果から指摘できるのは日本の子どもたちの読解力、応用力の不足だ。その意味で、この目標と合致するNIE活動に求められること、そしてできることが数多くあるのに、あらためて意を強くする。(大)

が直接、関係があると断言するのは難しい。ただ、新聞協会が調査した結果では、論文形式のテストでNIEの効果があることが分かった」と話す。

行政が、NIE活動を熱心に一般に勧めるのも韓国の特徴だ。

日本の文部科学省に相当する教育科学技術省は、NIEに熱心な学校や生徒、児童を表彰。「新聞を利用した学習が効果的」と断言する小学校用教科書もある。

韓国ではもとよりマスコミ関係者は一種の知識人と位置付けられ、社会に与える影響力が強いとされる。

「マスコミ関係者の代表的組織である韓国新聞協会がNIEを推進すれば、学校や家庭で新聞を取り入れた授業が増え、行政もNIEに力を入れるようになる」。NIEについて、韓国では、こんな循環が生まれているようだ。

(北海道新聞ソウル支局・青山修二)

お知らせ

2月は室蘭、帯広セミナーに参加を

当協議会主催の第7回室蘭・胆振セミナーは2月5日(土)午後1時30分から北海道新聞室蘭支社で開かれる。また、第9回帯広・十勝セミナーは同月11日(金)午後1時30分から道新帯広支社で開かれる。当該市や近隣の小、中、高校教諭らによる実践報告が行

1月11日冬季研修

道NIE研究会

北海道NIE研究会(会長・坂田恵三札幌市立新陵中学校長)主催の本年度第2回NIE実践交流会「冬季研修会」は1月11日(火)、北海道新聞社2階NIEプラザ(札幌市中央区大通西3の6)で開かれる。

午後2時開会。まず朝日新聞北海道支社の千葉光宏

られる。

いずれも参加は無料、一般も参加できる。申し込みは同協議会事務局(☎011・210・5802、FAX011・210・5826)へ。

室蘭・胆振セミナーの報告者は次の通り。

▽講演 札幌市立屯田中央・伊達峰史教諭(NIEアドバイザー)▽実践発表 室蘭市立陣屋小 高橋一仁教諭、伊達市立伊達中 白山恭之教諭 洞爺高 狩野千賀子教諭

報道センター長がミニ講演を行う。実践発表では、深川市立一巳小の鈴木拓、清水町立御影中の杉野浩利、札幌静修高の岡部泰子の3教諭が新聞活用例などを報告する。

参加申し込みと問い合わせは、同研究会の山田秀哉事務局長(札幌市立八軒小 教諭 ☎011・642・0155、FAX011・642・4946)へ。